

大館市教育委員会会議録

日 時 令和7年1月31日（金）

午後3時30分

場 所 大館市立長木公民館

第1，2研修室

大 館 市 教 育 委 員 会

大館市教育委員会会議録

1	開会の日時	日 時	令和 7 年 1 月 3 1 日（金）		午後 3 時 3 0 分
	及 び 場 所	場 所	大館市立長木公民館		第 1， 2 研修室
2 出席委員の氏名					
教育長職務代理者		山 田 和 人		委 員	工 藤 啓 子
委 員		小笠原 正 卓		委 員	真 田 かずみ
3 欠席委員の氏名					
4 委 員 以 外 の 出席者職氏名		(なし)			
5 出席した職員の職氏名					
教 育 長		高 橋 善 之		学校教育課長補佐	柴 田 賢
教 育 次 長		成 田 浩 司		学校教育課長補佐	工 藤 貴 胤
教 育 監		長 岐 公 二		生涯学習課長補佐	羽 沢 秀 則
教 育 総 務 課 長		北 林 香 子		中 央 公 民 館 長	外 館 志
学 校 教 育 課 長		鈴 木 明		歴史文化課長補佐	篠 村 朋 子
教 育 研 究 所 長		米 澤 貴 子		教育総務課総務係長	柳 谷 真 希
生 涯 学 習 課 長		畠 山 慶 子			
歴 史 文 化 課 長		関 智 仁			
教育総務課長補佐		宮 崎 史 人			
6 会議録署名委員 教育長・工藤委員					
7 会 議 書 記 教育総務課 総務係長 柳谷 真希					
8 教育長報告					
(1)		未来おおだてサミット事業について（交流推進課事業）			
(2)		子どもサミット代表会議について			
(3)		第 3 6 回大館市教職員研究実践発表会について			
(4)		障がい者の生涯学習事業（第 2 回なんでも発表会）の開催について			
(5)		冬季わんぱくスクール「子どもの護身術」の開催について			
(6)		新春 花岡ふるさとカルタ大会の開催について			
(7)		「大館のとんぶり製造技術」の国の登録無形民俗文化財登録について			
9 議 事					
議案第 1 号		大館市奨学資金貸与に関する規則の一部を改正する規則案			
協議第 1 号・		令和 6 年度 3 月補正 歳出予算要求の概要について			
協議第 2 号					
10 その他					
(配布) 事故報告 1 2， 1 月分					
次回 2 月 2 1 日（金）中央公民館 多目的室					

教育長が教育委員会に報告する事項

令和7年1月31日

担当課（学校教育課）

報 告 事 項	報 告 内 容
（１）未来おおだてサ ミット事業について （交流推進課事業）	1月8日から10日の日程で、市内の中学生9人が国内最先端の技術を有する施設を巡り、専門的な知識と先進的な取り組みをしている現場を直に見る貴重な経験をしました。 ANA 機体整備場、三菱重工ロケット・ロケットエンジン組み立て工場に加え、新たに東急不動産、東日本旅客鉄道の計4企業を見学し、生徒たちは積極的に質問をしたり反応したりして、充実した時間を過ごすことができました。 特に、東急不動産では、同社が進める渋谷駅周辺の都市開発について、新しい物を「生み出す」「創り出す」といった視点から大規模な開発プロジェクトを学ぶことができました。 【参加者】 教育研究所指導主事、中学2年生9名、引率教諭2名、交流推進課職員2名 計14名



出発前の結団式



ANA 機体整備工場の見学



渋谷ハチ公像の前で



東急不動産での研修

教育長が教育委員会に報告する事項

令和7年1月31日

担当課(学校教育課・教育研究所)

報 告 事 項	報 告 内 容
(2) 子どもサミット 代表会議について	【日 時】 令和6年12月26日 13時30分～16時30分 【場 所】 大館市役所 議場 【参加者】 サミット代表委員、サミット推進委員(校長会・教頭会の各担当校長・教頭、当番校教員)、市長ほか 【内 容】 今年度の各校の取り組みの紹介や意見交流をグループと全体で実施しました。グループ協議では、自校の取り組みについて、よいところや成果が上がっていることなどを資料にまとめ、タブレットを使用して発表し合いました。自校の取り組みの課題点を踏まえ、自校でも取り入れてみたいことや質問などもたくさん出ていました。 最後に、運営委員から来年度の活動が提案され、「様々なロス削減活動」と「メディアコントロールに関わる活動」に継続して取り組んでいくことが承認されました。



運営委員長のあいさつ



タブレットを使って取り組みを紹介



全体会でも積極的に手が挙がる



サミット代表委員全員で記念撮影

教育長が教育委員会に報告する事項

令和7年1月31日

担当課（学校教育課・教育研究所）

報 告 事 項	報 告 内 容
(3)第36回大館市教職員研究実践発表会について	・1月8日に中央公民館・ほくしか鹿鳴ホールにおいて本事業を開催し、405名の教職員、教育関係者が参加しました。 ・就学前1施設、小学校9校、中学校4校、教育研究所から15の取り組みについて発表が行われました。 「第0次学力向上に関する提言」につながる様々な分野の教育実践があり、教職員一人一人が学びたい講座を選択し、資質向上を図るよい研修となりました。 ・発表内容 (1) 学習指導（算数科、社会科、特別活動） (2) 生徒指導（自己肯定感を高める） (3) ICT（小規模校同士のオンライン授業） (4) ふるさとキャリア教育の実践（地域防災活動等） (5) 小・中連携 (6) 就学前教育 (7) 幼保小の架け橋プログラム (8) 心の健康教育 ・15の発表の動画はDVDに、発表資料のデータは校務支援システムの書庫に入庫し、各校の教職員がいつでも活用できるように準備中。 ・全体会では、聖霊女子短期大学生活文化科 生活こども専攻教授 大曾基宣氏より、睡眠の現状と重要性、睡眠の役割、食事との関係等について、根拠を基にご講演いただきました。 睡眠は、大館市の子どもたちの課題でもある「不登校」や「メディアコントロール」とも関わり、これからの各校の取り組みにも活用できる分かりやすい話でした。
 「睡眠」をテーマにした 大曾教授による講話	 各分科会の実践を熱心に聞く参加者  算数科における少人数学習の実践を、実演しながら語る発表者

教育長が教育委員会に報告する事項

令和7年1月31日

担当課（生涯学習課）

報 告 事 項	報 告 内 容
（４）障がい者の生涯学習事業（第２回なんでも発表会）の開催について	障がい者の持続可能な学びを提供するため、１月１２日にほくしか鹿鳴ホールにおいて、「第２回なんでも発表会」を実施しました。 発表会には、比内支援学校生徒や障がい者就労支援施設等から２０組・３１人の個人団体が参加して、歌やダンス等のパフォーマンスを披露し、大きなステージで歌ったり、踊ったりする夢を実現することで、発表の場を楽しんでいました。 また、高校生、ボランティアがスタッフとして参加し、障がい者と交流することで相互理解を深め、心のバリアフリーや合理的配慮を学び、共生社会の実践へつなげることが出来ました。 ○開催日時 令和7年1月12日（日）10時～12時 ○開催場所 ほくしか鹿鳴ホール 中ホール ○構 成 ・第１部 歌１２組（１３人）、ダンス４組（１３人）、手品１組（２人）、楽器演奏１組（１人） 合計１８組（２９人） ・スペシャルタイム クイズ大会１組（１人）、ピアノ演奏１組（１人） ・第２部 「みんなのコーナー」出場者全員による歌、ダンス ○参 加 者 ２００名（観覧者、ボランティア、関係者含む）



教育長が教育委員会会議に報告する事項

令和7年1月31日

担当課（中央公民館）

報 告 事 項	報 告 内 容
（５）冬季わんぱくスクール「子どもの護身術」の開催について	昨年12月26日、中央公民館において冬季わんぱくスクールを開催し、小学3年から中学3年までの児童生徒12人が「子どもの護身術」を学びました。 子どもたちは、大館警察署生活安全課の署員の指導のもと、受け身の取り方や腕をつかまれた際の振りほどもき方を実際に体験し、「護身術とは技術を学ぶことだけでなく、自分の命を守るための意識を持つことが最も重要である」などの助言を受けていました。 全員が初めての体験とあって、参加した子どもたちからは「護身術とは自分の命を守ることだとよく理解できた。今回の講座はとても興味深かった」との感想が寄せられ、護身術の基礎を学び、いざというときに身を守るための知識と意識を高めるよい機会となりました。 受け身（前受け身）の指導  腕の振りほどもき方の指導 

教育長が教育委員会に報告する事項

令和7年1月31日

担当課（歴史文化課）

報 告 事 項	報 告 内 容
(6) 新春 花岡ふるさとカルタ大会の開催について	1月16日、鳥潟会館において、新春恒例の「新春 花岡ふるさとカルタ大会」を開催しました。 この大会は、平成3年に当時の花岡幼稚園職員が地域の歴史や名所、人物を題材に作成した「花岡ふるさとカルタ」を活用して「花岡地区保小交流新春カルタ大会」を開催したのが始まりで、花岡地区の児童と園児が郷土の歴史に触れながら新春の交流を深めてきました。 令和6年3月に花岡保育所が閉所したことにより、一時は大会の開催が危ぶまれましたが、来年度、花岡小学校へ入学する予定の釈迦内保育園年長児2名が参加することとなったことから、大会名を変更して伝統を受け継ぐことができました。 当日は、児童、園児ともにルールを確認した後、練習、本番などに真剣な表情で臨み、一斉に札を目掛けて手を伸ばし、元気に札を取り合う姿が見られました。 今後も郷土の歴史を継承するため、「花岡ふるさとカルタ」を活用し、開催方法を工夫しながら大会を継続するとともに、様々なイベントを行うことにより地域の宝である鳥潟会館のすばらしさを発信してまいります。 ○参加者数 釈迦内保育園年長児 2人 花岡小学校1年生 3人 // 2年生 8人   練習 本番   本番 表彰式

教育長が教育委員会に報告する事項

令和7年1月31日

担当課（歴史文化課）

報 告 事 項	報 告 内 容
（７）「大館のとんぶり製造技術」の国の登録無形民俗文化財登録について	文化庁が、国の文化財登録原簿（登録無形民俗文化財）への登録に向けて調査していた「大館のとんぶり製造技術」が、文部科学省の審議機関である文化審議会の審議、議決を経て、1月24日、登録無形民俗文化財として登録するよう文部科学大臣に答申されました。 大館市に伝承される、ホウキギの実を原料として、「とんぶり」と呼ばれる当地特有の郷土食を製造する技術が、我が国における種実類^{しゅじつるい}の調理・調整技術の変遷を考える上で注目すべきものと評価されたものです。 今後、官報告示を経て、正式登録となる予定です。 【とんぶりの製造工程】 ホウキギの成熟した実を十分に乾燥させた後、釜で煮込み、樽に移して水分をよく含ませ、その後、実が潰れないよう擦り合わせて皮をむき、不純物を丁寧に取り除いて選別し、完成。  定植作業  収穫作業  加工作業  とんぶり

議 事 の 経 過	
	開会 午後３時３０分
教育長	ただ今より教育委員会会議を始めます。 会議録署名委員については、私と工藤委員にお願いします。 会議録についていかがだったでしょうか。 (「異議なし」の声あり) それでは、承認とさせていただきます。 では、「４．教育長の報告」をお願いします。
各課長	(「(１) 未来おおだてサミット事業について(交流推進課事業)」、 「(２) 子どもサミット代表会議について」、 「(３) 第３６回大館市教職員研究実践発表会について」、 「(４) 障がい者の生涯学習事業(第２回なんでも発表会)の開催について」、 「(５) 冬季わんぱくスクール「子どもの護身術」の開催について」、 「(６) 新春 花岡ふるさとカルタ大会の開催について」、 「(７)「大館のとんぶり製造技術」の国の登録無形民俗文化財登録について」、 を資料により報告)
教育長	ご意見、ご質問はございませんか。
委員	学校教育課に伺います。未来おおだてサミット事業について、子どもたちからその振り返りやレスポンスなど、注目すべきところがあったら教えてくださいたいです。
学校教育課長	２月３日にこの事業に関する成果発表会がありますので、そこでの報告を取りまとめて次回の会議に報告します。
委員	それでは、来月ご紹介いただければと思います。よろしく願いいたします。 あと、歴史文化課に伺います。 とんぶりの国の登録無形民俗文化財の件についてですが、これが登録されたことで、メディアの露出として「無形文化財」と付けられると思うのですが、それ以外に、この保存としてインセンティブ、ほかのところからまたお金が出てくるといったことがあればご紹介いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

歴史文化課課長	とんぶりの製造に関しましては、これまでも登録されるされないに関わらず、育行政ではなく産業部で支援をしまいいりました。「大館市重点戦略作物等作付推進事業」としてとんぶりが指定されておりますので、そちらで支援をしております。 委員お尋ねの登録されたことで何かということですが、こちらは文化庁の国庫補助がありますが、指定ではなく登録ですので、それほど補助は多くありません。例えば、登録無形民俗文化財の解説書等の冊子整備事業、これが採択されれば2分の1の国庫補助、あるいは民族文化伝承事業として、周知事業や伝承教室、講習会・発表会の開催事業等を行う場合に国から補助が出る、そのほか記録作成やそれを加工する事業、録音、映像等の制作事業といったものも補助のメニューにありますが、生産者側からすると、そういうPRも必要だとは思いますが、それよりもまずは生産者を増やしたいということだと思いますので、今後も産業部と連携しながら支援を継続していきたいと考えています。
委員	東館小学校と比内中学校では、このとんぶりのことに興味を持って卒業していく子どもたちがどんどん増えていて、もしかしたらそこから後継者ということも十分考えていいと思うので、生産者さんたちの思いと教育行政の助けがマッチできるところが見つければいいなと思いました。
教育長	まさに後継者となると、教育の果たすべき役割は大きいと思います。
委員	1月に行われました教育の研究実践発表会についてです。 まずは、各学校で忙しい中実践を積み重ねてくださっていたことと、発表してくださったことに改めて感謝申し上げたいと思います。 今回、私はICTの活用と就学前教育の発表について参加させていただきました。就学前教育のところでは、たしろ保育園の発表もあったのですが、やはり今の幼児は生活環境も変わっていてなかなか遊びに関心を示さない、長続きしないという課題が出されていて、今の義務教育の課題とも重なるところがあるなと聞いていました。 今回、その会場に小学校の先生もたくさん参加してしまして、幼保小のつながりを意識した指導がこれからもより充実していけばいいなと思ったところです。架け橋プログラムもありますし、その辺の充実を願っているところです。 それから、ICTのところでは小規模校同士のオンライン授業ということで、少人数の子どもたちが他校の子どもたちの考えを聞いて、大館で目指している深い学びにつなぐというところでは大変効果的な方法の1つではないかなと思ったところです。 ただ、話の中で機器の設定などが大変だということで、ICTの支援員さんに協力してもらったというお話がありました。今までもやってきていただいていると思いますが、今後もその支援を継続していただきたいと思ったところです。よろしくお願いします。

教育長	I C Tは、花岡小と矢立小のところでしょうか。
委員	そうです。
委員	そのI C Tの現状についてお伺いしたいのですが、前に学校訪問に伺ったときに1回機器を組んで、ネットワークを組んでつながって勉強できたのですが、それをばらして次の回のときにつながらないトラブルがあるようです。その機器をばらさないでそこに置いておいて、ネットワーク環境もそのままつないでおくと解決するのではないかと思ったのですが、令和6年の小学校同士のそのネットワークの授業について、何か新しいことに取り組まれているのかを伺えればと思うのですが、ご存知ですか。
教育研究所長	この小規模校同士はやはり少人数なので、多様な考えに触れる機会がなかなか取れないため、タッグを組んでやっています。 その他にも、岡山県の学校とも桂城小学校と花岡小学校で総合的な学習で学んだこと等をお互いに意見交換するように、オンラインで広くつながり始めているところです。
教育長	釈迦内小学校も、横浜の六浦（むつうら）小学校と尾上（おのえ）先生の関係で、そういうのがどんどん広がっております。 他にございませんか。せっかくですので、委員、御挨拶のところでもサミットのお話をしてくださいましたけれども、子どもたちの発表とか、伝える力とか、何かお気づきになった点、アドバイスなどないでしょうか。
委員	ああいった本筋からずれない、しっかりした意見を日々の授業の中でどんなふうに育んでいるのかなと私の方で思うくらい、とても素晴らしかったという感想です。
教育長	まさにおっしゃるとおり、やっぱり授業で育んできた、または教育活動ですね、集会とか、その積み重ねの成果だと思いますし、それから今回特に思ったのは、前までは中学生が発言すると小学生は黙って聞いているだけが多かったのですが、中学生に質問をしてくる小学生がいて、そういうふうなところもさらに進化したなと感じました。
委員	あと皆さんが、誰がどんな発言をしても、一度聞き入れる、「そうだと思います」と反応したりする、ああいった空気というのはどこの学校もでき上がっているのでしょうか。
教育長	そうですね。あれが「おおだて型授業」の基本です。

教育研究所長	おおだて型授業で最も大事にしている「共感的協働力」という未来大館市民になるための大事な力なので、自分と違う考え、違う方法であっても「そうなんだね」と1回受け止めてから自分の考えにさらにつなげていくやり方は、もう25校すべてで行っています。
委員	サミット会議のことについて、本当に何年もエコ活動とメディアコントロールに継続して取り組んでいて、素晴らしいなと改めて思っているところです。 子どもたちの個々の能力、考え方も含めて向上してきているので、考えたのがこの2つの課題だけでなく、新たにこんなこともしたいという意見が出てこないものかなというのを思ったところです。そういった子どもたちの考えの広がりみたいなのを吸い上げるような場があれば、マンネリ化がなくなって、更にレベルアップしていくのではないかなと思ったところです。
委員	実は、うちの娘が去年このサミットに参加させていただいたのですが、あの会議どうなったのだろうとか、これからどういう方向に進むのだろうと気になっているようだったんですね。幸い、あそこで会ったサミット運営委員の子たちとも、イベントや塾などで会ってお話することがあるようで、そういう気持ちを持っている子がたくさんいるようなのです。 オブザーブでもいいと思うので、OBの子たちが参加できる仕組みというか機会があるとありがたいなと思いました。そういうところから見ると、委員がおっしゃってくださった違った方向への視点とかそういうのも、もしかしたら見えてくるのかもしれないですし、現役の子どもたちにもより良い集まりになるのではないのかなと感じました。
教育長	OBだったり、OBではなくても高校生とかが参加したり、そのような形で、子どもたち主体の組織として、まだまだできるところがあるのではないかなということ、しかもそれを実行していけるだけの力が十分子どもたちにはもう育っているなということを私も感じていますので、そのような形での進化を模索していただければと思います。 他にはございませんか。なければ、報告はこれにて終わらせていただきまして、議事に入ります。説明をお願いします。
学校教育課長	(「議案第1号 大館市奨学資金貸与に関する規則の一部を改正する規則案」を資料により説明)
教育長	ご意見、ご質問等はありませんか。
委員	奨学生に対して費用が発生するのか、そうではなくて市の方で費用を発生させないのか、よくわからなかったので説明してほしいです。

学校教育課長	毎月、2、3件程度の未納が発生している状況で、未納者に対しては督促状と一緒に納付書も送付し、返還金と督促手数料100円を合わせて納付をしてもらっています。そして、返還金と督促手数料は別物ですので、毎月、その処理のための作業や窓口で誤って納めてもらった場合は、返還のための新たな事務作業が発生します。このことから、督促に係る費用、100円をもらわないようにするものです。
委員	わかりました。ありがとうございました。
教育長	他にございませんか。よろしいですか。それでは、承認とさせていただきます。 続きまして、次の議事について説明願います。
各課長	(「協議第1号・協議第2号 令和6年度3月補正歳出予算要求の概要について」を資料により説明)
教育長	ご質問等がございましたら お願いします。
委員	学校教育課にお伺いします。学校管理費の中で電気使用量増加による増額とありますが、燃料価格の高騰ではなくて電気使用量の増加なのでしょううか。
学校教育課長	主なものとして電気使用量の増加分として記載しています。令和6年度当初予算要求時は、過去の使用量を参考に予算が不足しないように予算要求をしていますが、実際の査定時において不用額が発生しないよう、ある程度少なくして予算を確定しています。このため、不足額が生じたため補正を行うものです。
委員	今年度、イレギュラーなことがあったため、今年だけ電気量が上がったということではないのですね。
学校教育課長	そのとおりです。今年度特別に電気使用量の増加があったものではありません。
委員	よくわかりました。
教育長	これは電気使用量だけの数値ですか？
学校教育課長	この補正予算要求額の中には、灯油、重油、ガソリンなどの燃料価格高騰分が含まれております。
教育長	正確に言えば、電気使用量等の増加ということですね。

学校教育課長	そのとおりです。
委員	わかりました。ありがとうございます。
教育長	他にございませんか。よろしいでしょうか。それでは、承認として進めます。 その他になりますが、委員の皆さまから何かございませんか。
委員	かねてからご紹介いただいております比内町公民館に行ってまいりました。おかげさまで大変良い勉強になりました。佐藤さんの写真はもちろんそうですが、あまりお目にかかることがなかった比内支援学校の方々の作品がたくさん展示してございまして、こういう形で機会をちょうだいできたことは本当に良かったなと思っています。あの仲澤くんの絵とか、それから八代さんの壁前面に小さいシールを貼って描くシールアートとか、麓さんのペン字は、すごく訴えかける力があったペン習字だったなと感じました。 そういった意味では、「とりの市」がメインになった関係で、もう少し前面にみんなのアートが出てきてもよかったのかなと思っています。非常に訴えかける力のある作品が多かったなと感じましたし、本当に機会をちょうだいしたと思っています。ありがとうございました。 写真を撮ってきましたが、あのシールアートはすごかったですね、本当にすごく大きくて、あれが何枚も重なって展示されたのは、市役所にあってもいいのかなというぐらいの力作と思いましたので、ぜひ今後ともああいう形の発表を続けていただきたいなと思っています。
教育長	委員が本当にそういうところに着目してくれて、子どもたちを評価していただいていること、本当にありがたいなと思います。
教育総務課長	(「来月の開催日程」について)
教育長	それでは、以上を持ちまして、教育委員会会議を終了いたします。
会議終了時刻 午後 4 時 3 5 分	